

日本小児科学会 神奈川県地方会 会員 各位

神奈川県における 2025/26 年シーズンの抗 RS ウイルスモノクローナル抗体製剤 投与スケジュールに関する推奨

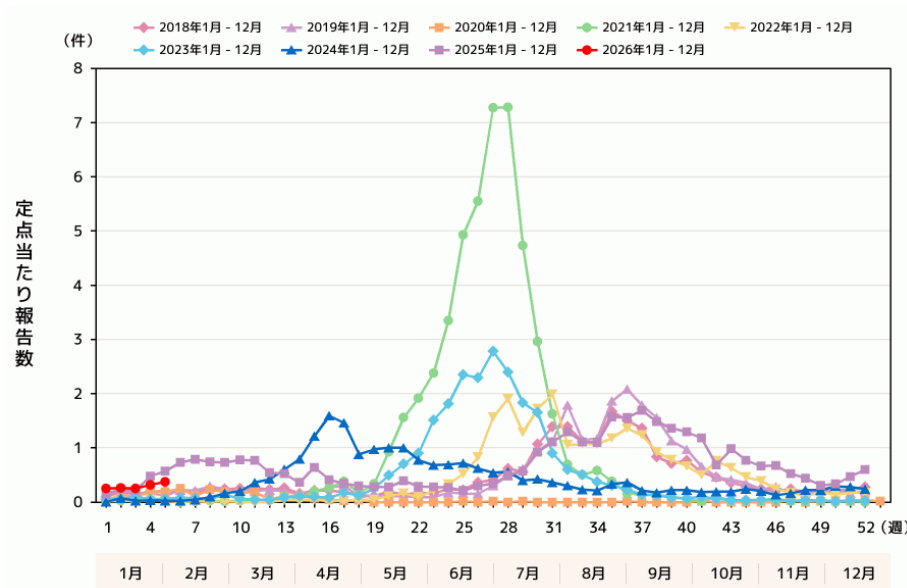
日本小児科学会神奈川県地方会感染症小委員会
清水博之、勝田友博、今川智之、齋藤可奈、平田陽一郎
日本小児科学会神奈川県地方会幹事代表
伊藤 秀一

2026 年 2 月 26 日

日本小児科学会神奈川県地方会感染症小委員会（以下、本委員会）は、2025 年 11 月に「神奈川県における 2025/26 年シーズンの抗 RS ウイルスモノクローナル抗体製剤投与スケジュールに関する推奨（暫定版）」を公示しました
(<https://jps-kanagawa.jp/documents/rsv2026.pdf>)。

上記提言の中では、2026 年シーズンの方針について、2025 と同様、暫定的に原則として 3 月～10 月とさせていただきます。（いわゆる通年性投与は導入せず、季節性投与を継続する方針）

その後、小委員会内で直近までの流行疫学を元に、慎重に議論を重ねてまいりました。現



在 2026 年第 5 週（1/26～2/1）までの定点当たりの報告数推移は下記の通りです。2025 年夏以降、流行が遷延していましたが、年明けから減少に転じ、今のところ局的な流行を除き、県全体として明らかな増加を認めません。

以上より、暫定版での推奨の通り、**神奈川県における 2026 年の RSV 感染症流行予想時期、モノクローナル抗体製剤の推奨投与時期は、3 月～10 月**とさせていただきます（季節性投与）。

なお、実際の投与スケジュールおよび Q&A に関しては以下もご参照ください。

1) 神奈川県における 2025/26 年シーズンの抗 RS ウイルスモノクローナル抗体製剤投与スケジュールに関する推奨（暫定版）

<https://jps-kanagawa.jp/documents/rsv2026.pdf>

2) 神奈川県における 2025/26 年シーズンの抗 RS ウイルスモノクローナル抗体製剤投与スケジュールに関する推奨（改訂版） Q&A

<https://jps-kanagawa.jp/documents/rsv20260226-02.pdf>

また、バイフォータス投与後の次のモノクローナル抗体製剤までの投与間隔について、前述 1)、2)の推奨において、「6 か月以上あける」とさせていただきました。一方で以前は、まだ有効期間のエビデンスが限定的であったため 5 か月以上あけることを推奨しておりました。この 1 か月の差によって、誤投与が発生することが危惧されたため、現時点では日本小児科学会のコンセンサスガイドライン Q&A の記述に準じ、**5～6 か月以上あけると**再度訂正させていただきます。（すなわち、初回投与から 6 か月未満で再投与した場合であっても、5 か月を超えての投与であれば保険適用となります。）

現在、通年性投与に移行している都道府県も増加しています。一方で、長期間作用型のバイフォータス®の有効期間におけるエビデンスは最長 6 か月程度までであり、現時点では通年性投与の有効性に関するエビデンスは十分とは言えません。また神奈川県では明確な流行ピークがあることも事実です。この状況を総合的に鑑み、2026 年は季節性投与の方針

とさせていただきます。今年度の流行疫学、現在実施中の全県調査の結果を踏まえて、次年度以降の投与方針を検討していきたく思います。

<この件に関するお問い合わせ>

日本小児科学会神奈川県地方会 感染症小委員会

清水博之 hiroyuki@yokohama-cu.ac.jp

勝田友博 katsuta-7-@marianna-u.ac.jp